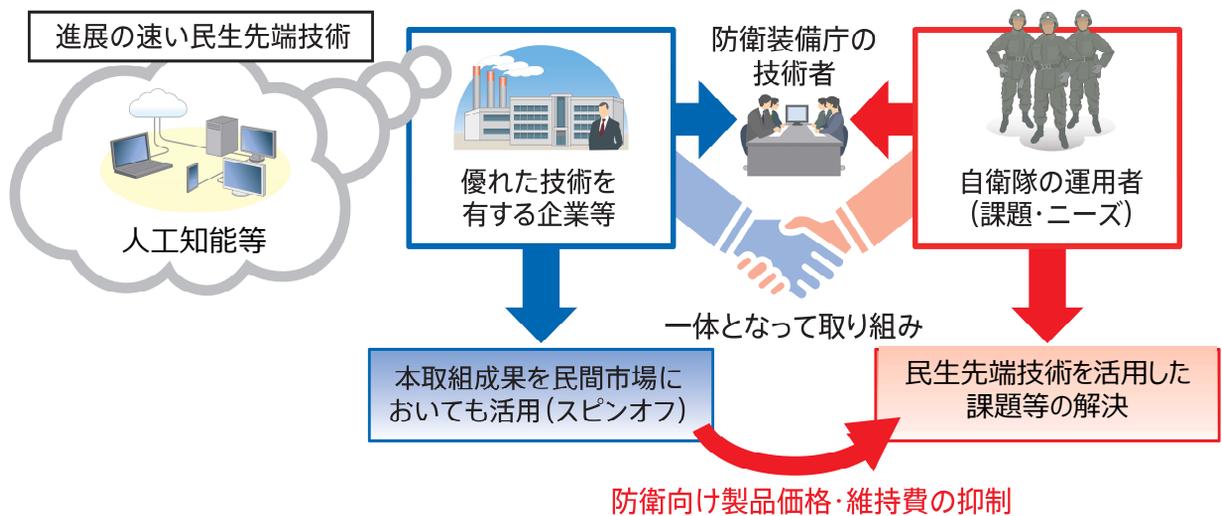


新技術短期実証事業

新技術短期実証HP: <https://www.mod.go.jp/atla/rapid.html>

進展する民生先端技術の速やかな取り込み

- ▶ 加速する科学技術イノベーションに進展への対応のため、防衛装備庁では、平成29年度より『進展の速い民生先端技術の短期実用化に関する取組（新技術短期実証）』に着手
- ▶ **新技術短期実証の取組**
 - ▶ 民生において実用化レベルにある先端技術の速やかな取り込み
 - ▶ 3年程度の短期間での実用化を追求



▶ 新技術短期実証事業の例

アクチュエータ技術等の活用による機材操作の無人化

- 危険度の高い地域での各種施設作業の機材操作について無人アクチュエータなどの遠隔操縦装置の実現可能性を実証

(イメージ)

航空関連教育用VRシステム

- 航空機の構造を仮想現実(VR)において模擬し整備手順及び不具合発見等の訓練を行うシステムの実現可能性を実証

(イメージ)

新技術短期実証事業

本件に関する問い合わせ先: 防衛装備庁技術戦略部技術計画官 gijutsukeikakukan@atla.mod.go.jp

新技術短期実証事業

新技術短期実証HP: <https://www.mod.go.jp/atla/rapid.html>

進展する民生先端技術の速やかな取り込み

▶ 新技術短期実証事業の流れ

新技術短期実証は、構想設計と仮作試験の2段階からなり、事業化におけるリスクの低減を図りつつ、自衛隊の運用者のニーズを十分に反映し事業を推進

仮作試験 (2年程度)

自衛隊において 実用化の検討



仮作品（分隊用無線ネットワークで活用するタブレット端末）の実証イメージ

- ・ 構想設計の成果を踏まえ仮作品を製作
- ・ 仮作品を用いた実証

構想設計 (1年弱)



官民による調整会のイメージ

- ・ 部隊の課題解決に活用する先端技術の検討
- ・ 構想を具体化

課題
検討

新技術短期実証事業

本件に関する問い合わせ先: 防衛装備庁技術戦略部技術計画官 gijutsukeikakukan@atla.mod.go.jp